

日テレ

第74期報告書

自平成18年4月1日 至平成19年3月31日

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、当期は好調な企業収益に支えられ景気の回復基調が戦後最長を記録しましたが、広告市場全体の環境変化もあり、テレビ広告費は2年連続の減少となりました。

当社はこのような状況下、視聴率動向による放送事業の苦戦もあり、グループ連結売上高は3,436億5千1百万円(前期比0.9%減)の減収となりました。一方、費用面では、減価償却費の逦減ほか、費用全般の削減に努め、経常利益は341億4千2百万円(前期比13.8%増)、当期純利益は183億3千1百万円(前期比33.8%増)のそれぞれ増益となりました。今期の配当は、配当方針であります「配当性向33%」により算出し、今期末の配当95円、中間期と合わせまして年間170円(前期より5円の増額)とさせていただきますこととなりました。

さて、当社は総合メディア産業の雄として、デジタル技術の急速な発展による大競争時代を勝ち抜いていくために、昨年、中期経営計画(2006-08年度)を発表しましたが、更なる成長を基本路線とした、中期経営計画(2007-09年度)を今年5月に策定しました。これは一段とスピードを速めている技術発展や環境変化にアグレッシブに対応・対処するためのものです。(詳しくは9から10ページを参照)

デジタル化による多メディア・多チャンネル時代というのは、視聴

者の皆様が映像媒体に接する機会(ポイント)が、これまで以上に拡がることを意味します。当社は最大の武器であるコンテンツ制作力を基盤にして、視聴者の皆様がいつでもどこでも当社のコンテンツに触れていただく「マルチコンタクトポイント戦略」を展開してまいります。この戦略の大きな柱を担うのがワンセグサービスであり、インターネット向け配信である「第2日本テレビ」です。

当社は、今後とも、コンテンツ制作力を中心とした経営資源の最適配分を図り、必要な投資を積極的に行うことにより「総合優勝」を目指します。

今後共一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年6月



日本テレビ放送網株式会社

代表取締役 取締役会議長 氏家 齊一郎 (写真左)

代表取締役 社長執行役員 久保 伸太郎 (写真右)

CONTENTS

目次

- 01 株主の皆様へ
- 02 日テレ2006 TOPICS
- 05 事業報告
- 09 中期経営計画(2007-09年度)
- 11 宮崎駿デザインの日テレ大時計
- 13 営業の概況
- 14 連結財務諸表
- 16 単独財務諸表
- 17 コラム「ワンセグって何?」
- 18 会社情報

表紙について:

世界最大級のからくり時計!
汐留に新たな名所が
誕生しました!

宮崎駿デザインの
日テレ大時計



当社がスタジオジブリと共同プロジェクトを立ち上げ、足掛け6年をかけて、巨大なからくり時計を製作しました。昨年12月、「誰からも愛される恒久的なシンボル」として完成、汐留の日テレ社屋にやって来ました。

※詳しい解説は11から12ページにあります。



14才の苦悩と人間ドラマに 視聴者の熱い注目と共感

14才 の母

ドラマ「14才の母」

水曜22時のドラマ「14才の母」。

14才の中学生が赤ちゃんを産む…に至るまでの苦悩と、
周辺の人々の人間ドラマを描いて、1話ごとに視聴者の熱
い注目と共感が高まっていく話題作となりました。

平均視聴率18.5%（最終回22.4%）と高い視聴率を獲得。
また本作品により脚本の井上由美子が芸術選奨、主演の志
田未来が最年少で橋田賞を受賞しました。



主人公・未希の両親を演じたのが、田中美佐子と生瀬勝久。愛娘に生命の大事さを教え、人生の困難を乗り越えていく勇気を与える重要な役を演じました。室井滋、北村一輝ら実力派俳優が、この「社会派ヒューマンドラマ」の脇を固めました。



2万人ものファンが来場した香港でのワールドプレミア。

海外でも熱狂的な歓迎!観客動員、TV放送、DVD販売、全て好記録を達成!

映画「DEATH NOTE」

前後編合わせて観客動員643万人、興収80億円という大ヒットを記録した映画「DEATH NOTE(デスノート)」。

海外でも、香港・台湾・韓国等での公開時に熱狂的な歓迎を受け、各地で興行収入新記録を樹立しました。また、後編公開の直前に放送した前編は、24.5%という高視聴率を獲得。3月に発売したDVDの初回出荷枚数も100万枚(2枚組・50万セット)を突破!「マルチユース」の大成功例として業績に貢献しました。

DEATH NOTE



(左)主演の藤原竜也と、「L」役の松山ケンイチ。「L」を主役とするスピンオフ企画の製作も決定。(右)後編「the Last name」のポスター。

© 2006「DEATH NOTE」FILM PARTNERS © 大場つぐみ・小畑健/集英社



働く女性を応援する 「お仕事エンターテインメントドラマ」

ハケンの 品格

ドラマ「ハケンの品格」

「ハケンの品格」は、平均視聴率20.1%の大ヒット。篠原涼子演じる「戦うスーパーハケンOL」大前春子が、多種多様なスキルをもって、正社員を振り回しながら、周囲に「ハケンの気持ち」を認めさせ、仕事に対する考え方を変えていく姿が評判を呼びました。正社員を圧倒する仕事振り、責任感、強く生きる姿は、若い女性はもとより中高年の男性からも多くの支持を集めました。



正社員・東海林武(大泉洋)はアンチ派遣主義者で、大前春子とは生き方が正反対。彼女にあこがれる同期入社の子友・里中賢介(小泉孝太郎)との3人が絡みあう人間模様も、ドラマの大きな魅力でした。

事業報告

□ 番組 | レギュラー番組は好調を維持

平成18年度の当社番組視聴率は、全日2位、プライム、ゴールデンはいずれも3位という結果となりました。

レギュラー番組では、「世界まる見え!テレビ特捜部」「ザ!世界仰天ニュース」「天才!志村どうぶつ園」「世界一受けたい授業」「エンタの神様」「ザ!鉄腕!DASH!!」「行列の出来る法律相談所」などが好調を維持しています。

ドラマでは、「マイ☆ボス マイ☆ヒーロー」が同時期民放ドラマで最高視聴率を獲得、「土9」ドラマとしての確固たる地位を築きました。

しかしながら、ナイター中継の視聴率が昨年に引き続き低迷し、苦戦を余儀なくされました。

単発では、「24時間テレビ29」が「絆」をテーマに、平均17.7%と、歴代2位の記録を残しました。

また年末には、6大陸のクラブチーム王者が集う「TOYOTA プレゼンツFIFAクラブワールドカップ」を編成、決勝戦である「バルセロナ×インテルナシオナル」は高視聴率を獲得、日本中が世界最高レベルのサッカーに酔いしれました。



「天才! 志村どうぶつ園」(毎週土曜日19時00分～ 放送)



「世界一受けたい授業」(毎週土曜日19時57分～ 放送)



「世界まる見え! テレビ特捜部」(毎週月曜日20時00分～ 放送)



「エンタの神様」(毎週土曜日22時00分～ 放送)

□ 報道 | 「より良い日本」目指し「ZERO」スタート

昨年10月期に、53年続いた「きょうの出来事」を改編、ニュース番組の新たな歴史の幕あけとして「ZERO」をスタートさせました。「より良い日本」を目指し、「視聴者の知りたいこと」に貪欲に応えていく姿勢で取り組んでおり、視聴率もトップを競り合う状況となるなど、幅広い世代に支持されるニュース番組として成長しています。

また、昭和45年（1970年）の放送開始より、一貫して時代を記録し続け、社会に問題提起を行ってきた「NNNDドキュメント」では、「化学物質過敏症」の子供たちの異変を取材した「カナリアの子供たち」が数々の賞を受賞したほか、格差社会を鋭く取材した「ニッポンの底辺」はギャラクシー賞優秀賞を獲得しました。

日曜夕方の「真相報道バンキシャ!」は、丁寧な取材と斬新な視点で当社の看板番組として、たびたび15%を超える視聴率を獲得しています。



NNNDドキュメント「ニッポンの底辺」



NNNDドキュメント「カナリアの子供たち」



「News リアルタイム」内でのシリーズ企画「教育クライシス」では、学力低下・指導力不足教員などの教育問題をはじめ、いじめ自殺問題にもスポットをあて、大きな反響を呼びました。

□ コンテンツ事業 | 通販事業が前年比215%増

映画事業は、待望のジブリ作品「ゲド戦記」が観客動員610万人、興行収入76.5億円という大ヒットとなり、平成18年公開の日本映画としては興行収入第1位の記録となりました。

通販事業では放送時間の拡大とオリジナル商品の積極的な開発が好評となり前年比215%増という驚異的な売上高の伸びを記録しました。

ライセンス事業では、前年に引き続き「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!!」DVDシリーズの販売が好調に推移し、累計で220万枚を突破しました。海外番組販売も「ごくせん」を始めとするドラマや巨人戦の海外配信などにより、前年に引き続き過去最高の売上高を大幅に更新しました。

出版事業では、月刊誌「3分クッキング」の好調な販売が続いており、創刊32年目にして通算200号（平成18年10月号）を迎えることができました。また、総発行部数も4,000万部を上回り、これは民放が出版する料理雑誌としては前人未到の記録となっています。



映画「ゲド戦記」

© 2006 二馬カ・GNDHDDT

通販番組
「ラジかるッ×ポシュレ」

□ イベント事業 | 5つの展覧会がベスト10入り

平成18年度は、前年度に引き続き自社企画・主催の美術展が好調でした。まず6月から8月にかけては、2回目となる「ルーヴル美術館展 ～古代ギリシア芸術・神々の遺産～」を開催、27万人が入場しました。夏休みに開催した「ディズニー・アート展」は大人から子供まで楽しめる展覧会として18万人が入場しました。秋から冬にかけては、「大エルミタージュ美術館展」と「スーパーエッシャー展」を開催し、好評を博しました。前者は、ヨーロッパ絵画400年の歴史を辿る本格的絵画展として30万人が訪れ、後者は鑑賞ガイドにコンテンツド・DSを導入するなど新しい試みにチャレンジし、若者を中心に18万人が入場しました。以上の4展覧会に前年度から7月にかけて開催した「ブラド美術館展」を加えた5つの展覧会全てが、雑誌「ぴあ」の読者人気投票のアート部門でベスト10に入り、美術展に於ける日本テレビの力量を示しました。

また、エンターテインメント系イベントにも積極的に取り組み、唐沢寿明主演の「地球ゴージャス HUMANITY」、鹿賀丈史・市村正親主演の「ペテン師と詐欺師」が共に大ヒットを記録しました。



「大エルミタージュ美術館展」を鑑賞される常陸宮妃殿下



「スーパーエッシャー展」

「ペテン師と詐欺師」

© Escher Holding B.V./Huis ten Bosch-Japan

□ 第2日本テレビ | 番組連動コンテンツが大好評!!

<http://www.dai2ntv.jp>

「第2日本テレビ」は平成17年10月に、地上波テレビ局として初めて自らが事業主体となってスタートしたインターネット向け動画配信サービスです。2年目を向かえた平成18年度は、地上波番組との連動企画を強化し、数々のドラマやバラエティ番組の舞台裏、未放送映像などで人気を集めました。また、「24時間テレビ」や「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!!大晦日特番」、「ダンス甲子園」などの特別動画を配信、番組注目度を高める取り組みも成功を収めました。

さらに、「箱根駅伝」や「東京六大学野球」など人気スポーツの動画配信も実現しました。また、最近話題を集めている“動画投稿サービス”も開始するなど、幅広いユーザーに支持されるサービスへと成長を続けています。



リニューアルされた「第2日本テレビ」のトップ画面

□ 技術・IT・メディア・ネットワーク

地上放送の完全デジタル化が進む中、当社はネットワークをあげてデジタル放送でのHD（ハイビジョン）番組やデータ放送の充実、ワンセグ放送の普及促進を進めています。完全移行は、平成23年（2011年）7月となりますが、放送波を補完するIPによる再送信やアナログ放送終了の告知活動、デジタル放送サービスをより充実させる新・東京タワーの実現なども在京各局と協力しながら進められています。

技術面では、麹町KスタジオのHD化更新で、全スタジオのHD化が完了。映像資産のマルチコースを目的に、メディア・アセット・マネジメントシステムの設備構築を進めました。

また、「箱根駅伝」をはじめとするスポーツ中継番組、報道中継番組の完全HD化に向け、移動中継車・ヘリコプター・受信基地局等のHD化を計画的に進めています。また、平成23年7月のアナログ放送停波に向けて地上デジタル中継局の建設も着々と進めており、昨年は、日立・矢板・沼田・銚子・小田原・秩父中継局を開局しました。

中継車・ヘリ・基地局のHD化



「箱根駅伝」をJR山手線内で放映



HDヘリが運用開始



「デジタルGTレイン」と巨人軍のマスコットキャラクターのジャビット君

□ BS日テレ・CS日本 | BSは開局以来の単月黒字達成

衛星デジタル放送では、BSデジタル放送受信可能世帯が三波共用機の普及とともに、この1年で1,000万以上増加。総数2,300万世帯を超え広告価値も高まったことから、BS日テレは開局以来の単月黒字（平成19年2月）を達成しました。

CSデジタル有料放送事業では、「箱根駅伝」「高校サッカー」などで地上、BS、第2日テレと共同したコンテンツ展開を図り、視聴者サービスの充実を実現しました。CS日本では、CSデジタル放送6チャンネルを運営していますが、特に日本テレビの名作ドラマなどアーカイブ番組を中心に放送するCSチャンネル「日テレプラス&サイエンス」が好調で、有料課金視聴者も80万人を超えました。また視聴者のニーズにこたえて「巨人の星 特別篇 父一徹」など人気オリジナル番組も制作・放送し、視聴者数の大量増加などさらなる発展を目指します。



BSデジタル民放5局の年始共同企画として、「オリエン特急行 幻想の旅」を5夜連続でリレー放送。ナビゲーター草野満代がバリからイスタンブールまでの道のりを歴史の旅としてたどりました。



CS日本「巨人の星 特別篇 父一徹」
© 2007 梶原一騎・川崎のぼる／講談社・TMS・CS日本



日本テレビグループ 中期経営計画

2009

(2007-09年度)

当社は、この度、中期経営計画(2006-08年度)を発展させた中期経営計画(2007-09年度)を策定しました。前中期経営計画のもと、着実に施策を実行し、成果も出ていますが、昨今、デジタル技術の急速な進歩や広告市場の構造的変化等、経営環境の変化も大きいことから、前中期経営計画で定めた長期および中期の経営目標を維持しつつ、新たな中期経営計画を策定したものです。



「NEWS ZERO」

映画「ALWAYS三丁目の夕日」
続編が11月3日より公開予定
© 2005「三丁目の夕日」製作委員会



「女王の教室」

「火垂るの墓」

1 前計画の成果

目標

放送収入 **NO.1**

成果

積極的な番組改編を実施

- ニュース番組「NEWS ZERO」の立ち上げ
- 「マイ☆ボス マイ☆ヒーロー」「14才の母」「ハケンの品格」等 人気ドラマの制作

コンテンツ制作力強化を狙い、制作・技術・美術・イベント子会社の再編を実施

目標

放送外収入伸び率 **NO.1**

成果

映画事業の伸び率80%

- 「ゲト戦記」、「DEATH NOTE」等

通販事業の伸び率215%

- 番組連動商品、独自企画商品等商品企画力の向上

目標

コンテンツ流通で売上 **NO.1**

成果

当社連結子会社VAPのDVD売上好調を維持

- 「ALWAYS 三丁目の夕日」「DEATH NOTE」DVDの大ヒット

CATV、BS、CS放送の順調な売上伸長
第2日本テレビサイトの大幅リニューアル

目標

顧客満足度で **NO.1**

成果

「火垂るの墓」が日本放送文化大賞の準グランプリ獲得
「女王の教室」が日本民間放送連盟賞テレビドラマ部門優秀賞受賞

「世界一受けたい授業」が日本PTA全国協議会のアンケート調査で“親が子どもに見せたい番組”トップ

2 中期経営計画（2007-09年度） について

前計画において設定した、総合優勝（放送収入No.1、放送外収入伸び率No.1、コンテンツ流通で売上No.1、顧客満足度でNo.1）を維持発展させることを経営目標としました。但し、計数目標については、最新の経営環境を反映すべく見直しました。

放送収入計数目標については、テレビ広告市場における構造的変化も考慮に入れ、従来よりもやや保守的な市場見通しを前提としています。一方、放送外収入計数目標については、一層の成長を目指しています。

計数目標	2006年度 実績	2009年度 目標
連結売上高	3,436 億円	4,260 億円
連結経常利益	341 億円	460 億円
連結経常利益率	9.9%	10.8%
テレビ放送事業比率	77.8%	74.2%

3 新計画での施策について

4つのNO.1のために

- (1) 放送収入の回復・拡大のために、引き続き積極的にタイムテーブルの見直しや番組改編を行います。
- (2) 映画事業・通販事業などを中心に、放送外事業全般の収益拡大を目指します。
- (3) ワンセグ関連事業や「第2日テレ」の発展に注力します。
- (4) 「開局55周年企画」として画期的な番組の制作やイベントの開催にグループを挙げて取組み、その成果を事業展開に活かします。
- (5) グループ会社の再編、体質転換を加速し、競争力の向上を図ります。
- (6) より高いコンプライアンス精神をもって、公器としての社会的責任を果たします。

4 財務・配当政策

- (1) 重要な経営指標は「売上高経常利益率」といたします。
- (2) 配当性向33%（下限150円）を配当方針といたします。

当社では、中期経営計画の着実な実行を目指して、全役員・社員が一丸となって努力致します。株主の皆様にも、より一層のご支援・ご指導を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。

※なお、中期経営計画の「プレスリリース」および決算説明会における配布資料などは、当社HPIに掲載しております。下記URLをご参照下さい。

<http://www.ntv.co.jp/ir/index.html>

宮崎駿デザインの 日テレ大時計

日テレ社屋の新たなシンボルとなったこの大時計は、スタジオジブリの宮崎駿監督がデザインを手がけ、造形家の鯨丸邦生氏をはじめとする職人達の手で、1枚1枚銅板を叩いて丁寧に造形されました。

その結果、「機械だけど、どこかで生き物」という不思議な大時計が出現しました。

細部にまでこだわった造作、個性豊かなキャラクター、一度見ただけでは全てを見切れないからくりの数々と、どこか懐かしい音楽に、忙しい人もふと足を留めることでしょう。

汐留に新たな名所の誕生です。



時計は正時まで、前脚と短針、長針を踊るように動かします。



音
鐘一族／長男

鐘一族の長男は、演奏のコンダクターとして、楽器の音に反応して屈伸運動をしながらリズムをきっちり取り戻します。終わりは律儀にお辞儀で挨拶も。



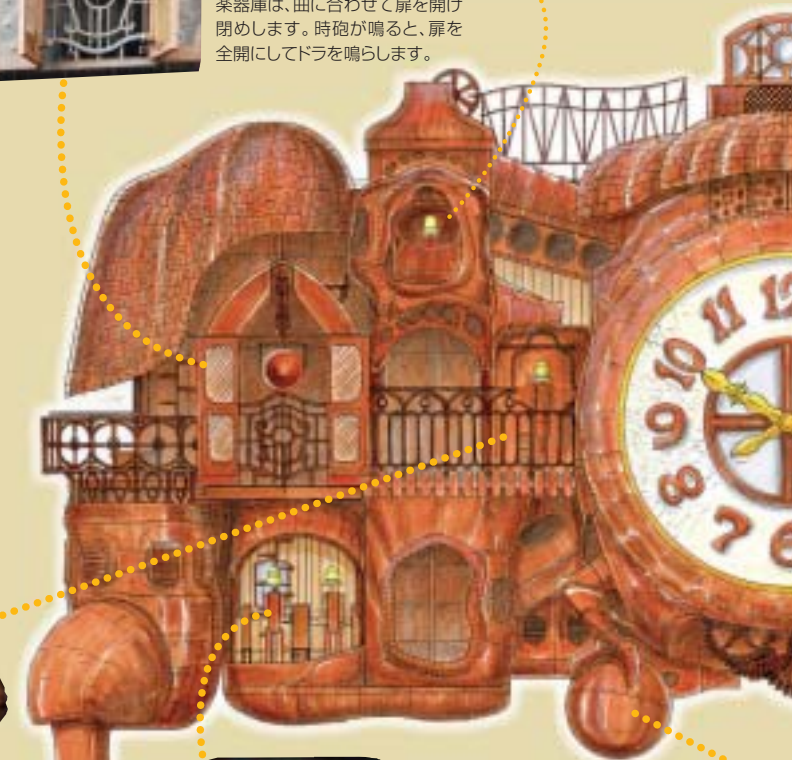
音
楽器庫

楽器庫は、曲に合わせて扉を開け閉めます。時砲が鳴ると、扉を全開にしてドラを鳴らします。



音
鐘一族／次男

鐘一族の次男のアタマの鐘は、時を知らせる大事な「音」が入っています。



銅板1228枚からなる大時計は、高さ12m、幅18m、重さ28tに及ぶビッグなスケール

音
鐘一族／父と母

夫婦二人で調子を合わせてハンドルを回す鐘一族の父と母。回すのを止めたり、二人の調子が合わないと、「音箱」が頂上へ到達することができません。

**動く力****鍛冶屋／一番弟子**

重たいハズミ車を回し、「大フイゴ」を動かして鍛冶屋に空気を送り込むのが一番弟子の仕事。親方が怒ると青ざめて灯りが消えます。

**動く力****ヤカタンク**

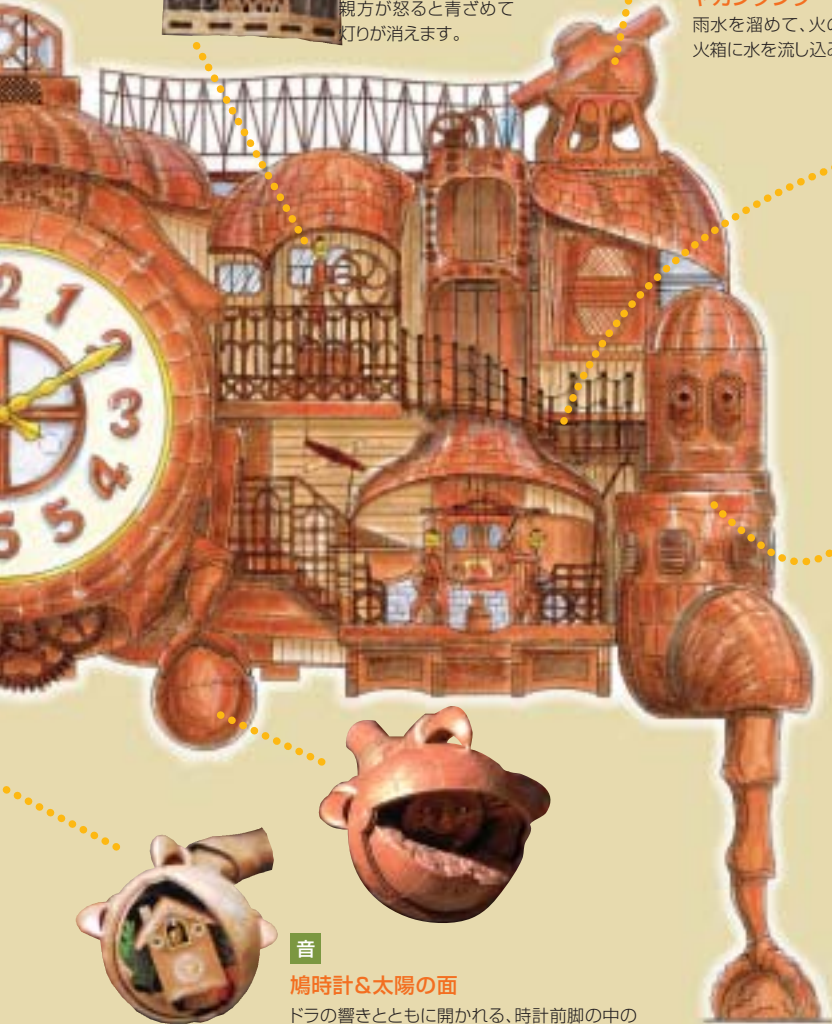
雨水を溜めて、火の灯った火箱に水を流し込みます。

**動く力 鍛冶屋／親方・二番弟子**

鍛冶屋の親方と二番弟子が作っているのは「大時計」の動く力の元となる部品。親方が火種を金床にあて、それを弟子が金槌で打つ。二人のタイミングがやっと合うと「部品」が作られ大時計の内部に送り込まれます。

**動く力****大時砲**

正時に大砲をうつのが仕事です。威圧感があるように見えますが、大砲をうったあとは無邪気に砲身を上下させます。

**音****鳩時計&太陽の面**

ドラの響きとともに開かれる、時計前脚の中の玉には、時計職人の秘蔵の品、「鳩時計」と「太陽の面」が入っています。

からくり作動タイム

からくりは、下記の時間の2分45秒前から動き出します。

月～金曜日

土・日曜日

♪ 12:00

♪ 10:00

♪ 15:00

♪ 12:00

♪ 18:00

♪ 15:00

♪ 20:00

♪ 18:00

♪ 20:00

※イベントなどにより変更あり

営業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、引き続き景気の回復局面にあり、平成18年(暦年、(株)電通調べ)の日本の総広告費は、5兆9,954億円(前年比100.6%)となりました。しかしながら、総広告費の3分の1強を占めるテレビ広告費は2兆161億円(前年比98.8%)で、2年連続の減少となりました。このテレビ広告市況の停滞を受け、主力のテレビ放送事業が減収となったこと等により、当社グループの連結売上高は3,436億5千1百万円で、前期比29億9千万円(△0.9%)の減収となりました。

セグメント別にみると、テレビ放送事業では売上高が2,679億3百万円となり、前期比100億7千3百万円(△3.6%)の減収となりました。タイムセールスは、レギュラー番組やプロ野球中継のセールスが振るわなかったこと等により、またスポットセールスは、市況の停滞や視聴率動向の影響等を受けたことから共に減収となりました。

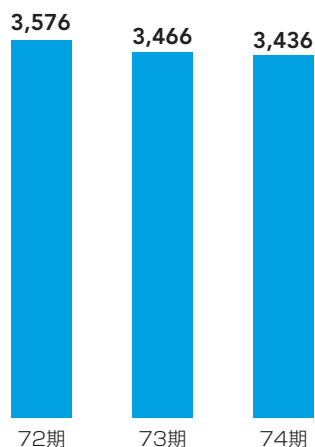
文化事業では売上高が694億1千1百万円で、前期比69億3千6百万円(+11.1%)の増収となりました。これは

主に、映画ビジネスで日本テレビ幹事作品の「DEATH NOTE」(平成18年6月公開)、「DEATH NOTE the Last name」(平成18年11月公開)の大ヒットや、通信販売ビジネスが大幅に売上を伸ばしたことによるものです。

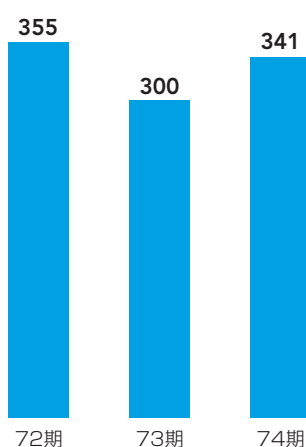
その他の事業ではテナント賃貸収入がほぼ前期並みの水準で推移する一方、連結子会社の(株)日本テレビフットボールクラブの業績が振るわなかったこと等から、売上高は前期比5億4千6百万円(△3.6%)減収の145億3千6百万円となりました。

経常利益は、番組制作費を中心に費用全般にわたって削減に努めたことや、売上高の減少に伴い代理店手数料が減少したこと等により、341億4千2百万円で前期比41億2千8百万円(+13.8%)の増益となりました。さらに、当期純利益は、投資有価証券評価損等の特別損失が前連結会計年度と比較して少なかったこと等から、183億3千1百万円で前期比46億3千1百万円(+33.8%)の増益となりました。

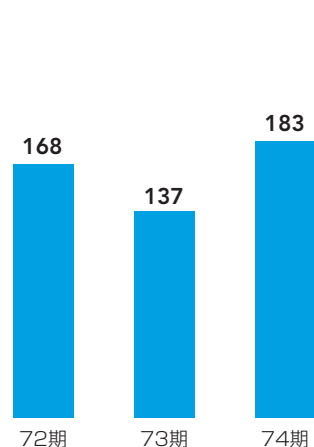
■ 連結売上高 (億円)



■ 連結経常利益 (億円)



■ 連結当期純利益 (億円)



連結財務諸表

□ 連結貸借対照表

単位：百万円

科目	期別	当 期 末 平成19年3月31日現在	前 期 末 平成18年3月31日現在
【資産の部】			
流動資産		193,543	170,305
固定資産		335,721	349,646
有形固定資産		197,301	206,134
無形固定資産		4,150	4,675
投資その他の資産		134,269	138,836
資産合計		529,265	519,951
【負債の部】			
流動負債		82,070	74,060
固定負債		35,199	40,902
負債合計		117,270	114,962
【少数株主持分】 少数株主持分			6,971
【資本の部】			
資本金		—	18,575
資本剰余金		—	17,928
利益剰余金		—	350,025
其他有価証券評価差額金		—	21,084
為替換算調整勘定		—	△ 56
自己株式		—	△ 9,540
資本合計		—	398,017
負債、少数株主持分及び資本合計		—	519,951
【純資産の部】			
株主資本		390,133	—
評価・換算差額等		14,040	—
少数株主持分		7,820	—
純資産合計		411,994	—
負債純資産合計		529,265	—

□ 連結損益計算書

単位：百万円

科目	期別	当 期 自平成18年4月 1日 至平成19年3月31日	前 期 自平成17年4月 1日 至平成18年3月31日
売上高		343,651	346,642
売上原価		238,913	242,643
売上総利益		104,738	103,999
販売費及び一般管理費		74,393	75,448
営業利益		30,344	28,551
営業外収益		3,907	1,949
営業外費用		109	485
経常利益		34,142	30,014
特別利益		590	722
特別損失		2,320	4,411
税金等調整前当期純利益		32,413	26,325
法人税、住民税及び事業税		13,183	10,429
法人税等調整額		△ 510	385
少数株主利益		1,408	1,810
当期純利益		18,331	13,700

連結財務諸表

□ 連結剰余金計算書

単位：百万円

科目	期別	前 期	
		自平成17年4月1日 至平成18年3月31日	自平成17年4月1日 至平成18年3月31日
(資本剰余金の部)			
資本剰余金期首残高			17,928
資本剰余金期末残高			17,928
(利益剰余金の部)			
利益剰余金期首残高			330,170
利益剰余金増加高			
1. 当期純利益	13,700		
2. 持分法適用会社増加に伴う剰余金増加高	10,995	24,696	
利益剰余金減少高			
1. 配当金	4,741		
2. 役員賞与	100	4,841	
利益剰余金期末残高			350,025

□ 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	期別	当 期 前 期	
		自平成18年4月1日 至平成19年3月31日	自平成17年4月1日 至平成18年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		31,457	32,683
投資活動によるキャッシュ・フロー		△24,596	△24,358
財務活動によるキャッシュ・フロー		△4,713	△15,920
現金及び現金同等物に係る換算差額		7	86
現金及び現金同等物の増減額		2,155	△7,509
現金及び現金同等物の期首残高		59,368	66,877
現金及び現金同等物の期末残高		61,523	59,368

□ 連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)

単位：百万円

	株主資本					評価・換算 差額等	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計			
平成18年3月31日残高	18,575	17,928	350,025	△9,540	376,989	21,028	6,971	404,989
連結会計年度中の変動額								
利益処分による剰余金の配当			△2,869		△2,869			△2,869
剰余金の配当			△1,871		△1,871			△1,871
利益処分による役員賞与			△90		△90			△90
当期純利益			18,331		18,331			18,331
自己株式の取得等				△356	△356			△356
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△6,987	848	△6,138
連結会計年度中の変動額合計	—	—	13,500	△356	13,144	△6,987	848	7,005
平成19年3月31日残高	18,575	17,928	363,525	△9,896	390,133	14,040	7,820	411,994

単独財務諸表

□ 貸借対照表

単位：百万円

科目	期別	当 期 末	前 期 末
		平成19年3月31日現在	平成18年3月31日現在
【資産の部】			
流動資産		144,666	130,690
固定資産		314,179	329,177
有形固定資産		194,073	202,884
無形固定資産		3,409	4,000
投資その他の資産		116,695	122,292
資産合計		458,845	459,867
【負債の部】			
流動負債		74,662	71,031
固定負債		31,968	37,299
負債合計		106,631	108,331
【資本の部】			
資本金		—	18,575
資本剰余金		—	17,928
利益剰余金		—	303,634
その他有価証券評価差額金		—	20,937
自己株式		—	△9,540
資本合計		—	351,536
負債資本合計		—	459,867
【純資産の部】			
株主資本		338,488	—
評価・換算差額等		13,725	—
純資産合計		352,213	—
負債純資産合計		458,845	—

□ 損益計算書

単位：百万円

科目	期別	当 期	前 期
		自平成18年4月1日 至平成19年3月31日	自平成17年4月1日 至平成18年3月31日
売上高		288,636	287,829
売上原価		199,819	199,052
売上総利益		88,817	88,777
販売費及び一般管理費		67,919	70,326
営業利益		20,898	18,450
営業外収益		3,039	2,017
営業外費用		74	320
経常利益		23,863	20,146
特別利益		173	701
特別損失		2,121	6,958
税引前当期純利益		21,915	13,889
法人税、住民税及び事業税		8,530	6,255
法人税等調整額		658	△367
当期純利益		12,726	8,001
前期繰越利益		—	3,934
中間配当額		—	1,247
当期末処分利益		—	10,688

□ 株主資本等変動計算書

当事業年度（自平成18年4月1日 至 平成19年3月31日）

単位：百万円

	株主資本					評価・換算 差額等	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計		
平成18年3月31日残高	18,575	17,928	303,634	△9,540	330,598	20,937	351,536
事業年度中の変動額							
利益処分による剰余金の配当			△2,869		△2,869		△2,869
剰余金の配当			△1,871		△1,871		△1,871
利益処分による役員賞与			△90		△90		△90
当期純利益			12,726		12,726		12,726
自己株式の取得				△5	△5		△5
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）						△7,212	△7,212
事業年度中の変動額合計	—	—	7,895	△5	7,889	△7,212	677
平成19年3月31日残高	18,575	17,928	311,530	△9,545	338,488	13,725	352,213

ワンセグって何？

「ワンセグ」とは携帯端末等で視聴可能な地上デジタル放送サービスです。現在、対応端末は爆発的に普及中で、開始1年の平成18年度末時点で、ワンセグ対応携帯電話の出荷台数は500万台を超え、平成19年度末には2,000万台に到達すると予測されています。

ワンセグは、「小型端末でもテレビ映像が鮮明に見られる」だけでなく、テレビとネットを連携させたサービスが可能な端末仕様となっています。

当社では、ワンセグのこうした特性を最大限に活かすサービスを種々開発し提供しています。例えば「プロ野球2007」では、データ放送部分に、スコアボード内容など「試合状況に応じて変化すべきコンテンツ」を配置し、一方「選手名鑑」などデータベース検索を必要とするサービスはインターネット上に配置。複合的にテレビとネットが連携していくサービスを実施しています。

また、ビジネスモデルの開発にも積極的に取り組んでいます。ワンセグによる収益モデルは大別して、「デジタルコンテンツ収益」「コマース連携収益」「広告」の3つが想定されます。その中でも「広告」は新商品開発に時間を要するため、現在様々な整理を進めながら開発している段階です。

当社は、ワンセグを世界初の「放送・通信連携ビジネス」の成功事例に導くべく、日々対応を続けています。



「MCPCアワード2007」を受賞



テレビ業界初の「モバイルプロジェクト・アワード2006」を受賞

当社では、ワンセグ事業の根幹を支える「端末仕様」や「基本サービスモデル」の開発に早期から積極的に関わり、端末普及に向けたあらゆる作業に従事すると同時に、各種サービスやビジネスモデルの開発に取り組んでおります。

ワンセグはここがスゴイ!!



CLEAR

■クリアな映像

デジタル放送だから、移動中でもノイズの無い鮮明な映像と音声を楽しめる!



EASY

■持ち運びも楽々

携帯電話などに搭載されているので、持ち運んでいつでもどこでもテレビ観賞!



DATA

■便利なデータ放送

最新のニュース・天気から番組のお楽しみ情報まで、ボタン操作で簡単に手に入る!



FREE

■もちろん無料

ワンセグのテレビ視聴はもちろん無料! テレビを見るだけなら通信費用もかかりません。



SAFETY

■まさかの時も安心

災害発生時など携帯電話が通じにくくなった時も、ワンセグなら大丈夫。災害情報をチェックできます。



日本テレビのワンセグ向けメニュートップ画面(左)と、今年の箱根駅伝の配信画面(右)

会社情報

(平成19年3月31日現在)

□ 会社の現況

商号 日本テレビ放送網株式会社
 設立 1952(昭和27)年10月28日
 資本金 185億7,599万7,144円
 主な事業内容 放送法による一般放送事業、
 及びその他放送事業
 放送番組の企画、製作及び販売
 文化事業その他放送に関連する
 一切の事業
 主な営業所 本社 東京都港区
 関西支社 大阪市北区
 名古屋支局 名古屋市中区

□ 取締役・監査役及び執行役員

(平成19年6月28日現在)

代表取締役 取締役会議長	氏家 齊一郎	取締役	正力 亨
代表取締役 相談役	問部 耕莘	取締役	渡邊 恒雄
		取締役	山口 信夫
		取締役	前田 宏
代表取締役 会長執行役員	細川 知正	取締役	堤 清二
代表取締役 社長執行役員	久保 伸太郎	取締役	今井 敬
取締役 専務執行役員	舩方 勝宏	取締役	岩本 行正
取締役 常務執行役員	島田 洋一	常勤監査役	横江川 欣也
取締役 執行役員	三浦 姫	監査役	瀬島 龍三
取締役 執行役員	室川 治久	監査役	土井 共成
取締役 執行役員	田村 信一	監査役	水上 健也
取締役 執行役員	弘中 喜通	上席執行役員	平井 文宏
		上席執行役員	能勢 康弘
		執行役員	大島 悦郎
		執行役員	五味 一

□ 株式の状況

発行可能株式総数 100,000,000株
 発行済株式総数 25,364,548株
 当期末株主数 45,789名
 大株主

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
1 株式会社読売新聞グループ本社	3,764	15.9
2 読売テレビ放送株式会社	1,574	6.6
3 株式会社読売新聞東京本社	1,353	5.7
4 学校法人帝京大学	897	3.8
5 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	790	3.3
6 株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	760	3.2
7 モルガンスタンレーアンドカンパニーインターナショナルリミテッド	588	2.4
8 日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	567	2.4
9 名古屋テレビ放送株式会社	566	2.4
10 株式会社よみうりランド	523	2.2



汐留の本社・日本テレビタワーは在京民放各社に先がけ、平成16年に環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」に認証されましたが、さらに昨年11月には関西支社、名古屋支局、麹町ビル、生田スタジオ等について拡大しました。また、3年目を迎えた「ECOウィークエンド」イベントは6月2日～4日に開催、「無理せず・楽しみながら続けられるエコロジー」を提案しました。



イベント会場ではゲストによるミニライブ&トークショーや、ロハスを追及した実験的な「ロハスの家」の展示が好評でした。

株主メモ

- **事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
- **定時株主総会** 毎年6月
- **剰余金の配当** 毎年3月31日の最終の株主名簿(実質株主名簿を含む)に記載または記録された株主または登録株式質権者にお支払いいたします。
- **中間配当** 取締役会の決議により、中間配当を実施する場合は、毎年9月30日の最終の株主名簿(実質株主名簿を含む)に記載または記録された株主または登録株式質権者にお支払いいたします。

■ 外国人等の株主名簿への記載または記録の制限

当会社は、次の各号に掲げる者(以下、「外国人等」という。)から、その氏名または名称及び住所等を株主名簿(実質株主名簿を含む。以下同じ。)に記載し、または記録することの請求を受けた場合において、その請求に応ずることにより、第1号から第3号までに掲げる者により直接に占められる議決権の割合とこれらの者により第4号に掲げる者を通じて間接に占められる議決権の割合として総務省令で定める割合とを合計した割合(以下、「外国人等議決権割合」という。)が、当会社の議決権の5分の1以上を占めることとなるときは、放送法の規定に従い、外国人等の氏名または名称及び住所等を株主名簿に記載し、または記録することを拒むことができる。

1. 日本の国籍を有しない人
2. 外国政府またはその代表者
3. 外国の法人または団体
4. 前各号に掲げる者により直接に占められる議決権の割合が総務省令で定める割合以上である法人または団体

◎ 前項の規定による場合を除き、前項第1号から第3号までに掲げる者により第4号に掲げる者を通じて間接に占められる議決権の割合が増加することにより、株主名簿に記載され、または記録されている前項第4号に掲げる者が有し、または有するものとみなされる株式のすべてについて議決権を有することとした場合に、外国人等議決権割合が当会社の議決権の5分の1以上を占めることとなるときは、放送法の規定に従い、その議決権を制限することができる。

■ 株式の名義書換

- **株主名簿管理人** 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
- **同事務取扱場所** 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社 本店
- **同事務取扱所** 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)
- **同 取 次 所** 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店

■ **単元株式数** 10株

■ **公告の方法** 読売新聞に掲載する。



日本テレビ放送網株式会社

〒105-7444 東京都港区東新橋一丁目6番1号

<http://www.ntv.co.jp>

